

## 令和5年度 旭区地域福祉保健計画推進研修・旭区社協子ども支援研修会

### 質疑応答

#### 【今宿小学校放課後自習室への質問】

質問：子ども達への周知はどのようにしているのか。

回答：地区としては広報紙で周知している。参加した子どもが友達を誘って来てくれたこともあった。

質問：1回あたり、何名ぐらい参加者が来て、何名の担い手で運営しているのか。

回答：子どもは5~6名程度。担い手は3名。会場となっている教室の大きさにこのぐらいがちょうど良い。

質問：スクールソーシャルワーカーはどのような関わりをされているのか。

回答：活動立ち上げの際に、学習支援をやりたいと考えていた学校と区社協をつないでくれた。(その後の地区社協への相談につながった。)

質問：学習支援と放課後キッズを併用して利用することはできるのか。

回答：学習支援の後にそのまま放課後キッズを利用する子どもたちがいるので、同じ学校内だが、学習支援が終わると放課後キッズの部屋まで送って行っている。

質問：活動財源について、何か助成金は活用しているか。

回答：区社協の助成金制度は使わず、地区社協からの助成金で活動している。

#### 【カレーハウス笹野台への質問】

質問：コロナが終息していない中で、食堂の開催に反対の意見はなかったか。

回答：緊急事態宣言期間は休止したが、このまま開催しないと活動が出来なくなってしまうのでやりたいと連合自治会、地区社協とも話し合い、感染防止の工夫をしながら開催することに反対の意見はなかった。

質問：食堂に子どもだけの参加はあるか。

回答：小学生同士で誘い合って来ている。

質問：食品衛生はどんな対策をしているのか。

回答：食堂を始めるにあたり、区役所に相談し食品衛生に関する講習会をしたり、調理場環境を確認してもらったりした。また、調理に携わる者は年2回の検便検査を行っている。

質問：食材はどのように調達しているのか。

回答：以前は、買出し担当を決めスーパーに行っていたが、現在は買出しの負担を減らすために多少割高になるが、近所で行われている移動販売の機会にまとめて購入することになっている。また、参加者からお米の寄付をいただくこともある。

質問：子ども達への周知はどのようにしているか。

回答：地区社協のホームページ、広報紙、掲示板で周知している。保育園や放課後キッズで働いているメンバーがいるので声かけをしたり、参加した子ども達からの口コミで広がっている。

#### 【牧岡講師への質問】

質問：講師の関わっている『寺子屋』はどのような様子か。

回答：子どもは65名程度登録があり、各回15名程度の子どもに対して6名のスタッ

フで対応している。会場が大きくないので、低学年と高学年とで参加できる週を分けている。

質問：本当に困っている子どもたちに居場所活動の情報が届いているのか疑問。必要な子どもたちに情報を届けるにはどうしたら良いのか。

回答：困窮支援を前面に出すと、参加しづらくなる。誰でも来られる、居心地の良い場をつくるのが大切。

---

(以下の質問は、当日回答しきれなかった分)

質問：定年退職後も働く人が増え、子どもに関わる地域の「大人」というものが少なくなっているが、こうした働く大人を活動にどのように引き込んでいけるだろうか。

回答：当日お示しした「線」をたぐり寄せる活動を展開してはどうか。

例えば、地域で取り組まれている活動を「こんなことをやっています」と地域に発信することを繰り返し行ってみる。また、個々のメンバーが持っている顔見知りの人、今は付き合いが遠くなっている隣人や地域の人を地元の地図上に「点」で描いていってみると、「今度声をかけてみよう」という人が浮かんでくるかもしれない。思いの外、声をかけられることを待っている人に出会うもの。

---